

Enpower は次世代電池実用化に向けた資金調達を実施 2022年累計調達額は3500万ドル（約45億円）に

June 30th, 2022

Enpower Japan 株式会社を傘下に持つホールディング会社 Enpower Greentech Inc. (以下「Enpower」)は、Sequoia Capital China と Dayone Capital が主導する投資ラウンド、シリーズ A+ で 2,000 万ドルを調達しました。GAC Capital、BR Capital、Tianqi Capital、Niuli Venture も本投資ラウンドに参加、Scheme Capital が投資アドバイザーを務めました。

本投資ラウンドは、今年初めに 1,500 万ドルを調達したシリーズ A に続くもので、今回の資金調達により、Enpower では、生産工場の建設、製品性能の改善、市場の拡大と言った、リチウム金属電池および全固体電池の実用化に向けた活動を加速して参ります。

2012 年に設立された Enpower は、主にドローンおよび電気自動車市場向けに高エネルギー密度金属リチウム電池および全固体電池を開発しています。ソフトバンク株式会社や自動車メーカーと連携し、日本、米国、中国に研究開発・生産拠点を構えています。また、Enpower は独自開発したリチウム金属の界面制御技術及び電解質/電解液技術により、安全性を損なうことなく、従来のリチウムイオン電池のエネルギー密度上限値を大幅に更新しました。これまで、エネルギー密度 520Wh/kg かつ 1100Wh/L 級の性能を持つ、容量 1.2Ah/3.6Ah/10Ah クラスの金属リチウムパウチセルおよび円筒形セルの開発に成功しております。また、第三者機関による UN38.3 国連勧告輸送試験だけでなく、リチウムイオン電池にとって難題な釘刺し試験にも同様に合格しました。

今年の第 4 四半期には、ドローン市場向けにリチウム金属電池の供給を予定しています。その後、eVTOL や電気自動車市場へのサンプル供給を実施する計画です。Enpower の金属リチウム電池の早期商品化により、サプライチェーンの構築が加速され、次世代バッテリーのコスト削減が期待されます。

Enpower では世界屈指の技術者を集め、100 件以上の電池関連特許出願、および電池開発分野における各種発表を実施してきています。2019 年ノーベル化学賞を受賞したテキサス大学オースティン校のジョン・グッドイナフ教授や東京工業大学の菅野了次教授のチームと協力して、共同開発を続けてきています。

最後に Enpower は、今年で 100 歳となられるジョン・グッドイナフ教授の誕生日を祝う機会に、より安全で環境に配慮した将来の電動化・低炭素化社会実現に向けた研究開発活動に邁進することを、ジョン・グッドイナフ教授にお約束したいと思います。

Contacts

Enpower Japan Corp. (Japan)

E-mail : contact@enpowerjp.co.jp

Enpower Greentech Inc. (USA)

E-mail : contact@enpowerus.com

Enpower Technology Co. (China)

E-mail : contact@enpower-energy.com